

医療はチーム力。友達と話し合って遊ぶ経験が、将来仲間と協力して子どもを治す助けになります。



子どもの"〇〇になりたい!"に
"あの人"がお答えします!

このお仕事知ってる?

おおのあかちゃんこどもクリニック 院長

大野 直幹さん

Profile



なまえ
お名前

おおの なおき

しよくぎょう
職業

しょうにかい
小児科医

(あかちゃんやこどもの
ためのお医者さん)

こころ ゆめ
子どもの頃の夢

しょうにかい
小児科医

す
好きな言葉

くも む あおぞら
雲の向こうはいつも青空

There is always light behind the clouds.
(ルイーザ・メイ・オルコットの「若草物語」より)

こころ す きょうか
子どもの頃に好きだった教科

さんすう
算数

略歴

東京都出身。1997年愛媛大学卒業。岡山大学小児科学教室に入局。以降、主に中四国の病院に勤務し、約2年間カナダのトロントに留学も。帰国後、川崎医科大学に勤務し教授に。専門分野は小児循環器。今年4月に「おおのあかちゃんこどもクリニック」を開院。プライベートでは18歳・15歳の2人の娘の優しいお父さん。

岡山にゆかりのある方から、お仕事について教えてもらう大好評連載です。今月は、新規開院を目前に控えて準備に奔走する小児科医の大野先生にお話を聞きました。馴染み深い小児科のクリニックの先生って、いつもどんなお仕事をしているのでしょうか。小児科の先生ってどんなお仕事ですか？

「生まれたばかりの赤ちゃんから、15歳までの子どもを診るお医者さんです。病気の種類によっては、お母さんのお腹の中にいる時から、また大人になってからも診ることがあります。他の科と小児科の違いは、診察は赤ちゃんや子ども、問診(お話を聞く人)は主にお母さんと別々のことがあるところです。子どもたちの成長を長いスパンで見られるのは大きなやりがいですし、身体と心の発育発達をいつも意識しながら診察をしていくのがポイントです。子どもの病気が急に発症して急いで対処しないといけないことも多いです。そんなときは、ご家族もとても不安になるので、お子さんだけでなくそのご家族にも安心してもらえようという説明と治療をすることが大切だと

よりよい検診・受診のために

1. 日常的にメモを取ろう

「これってどうなの?」と普段の生活で思っても、いざ健診・受診となったら忘れがち。メモ帳を見せてもらえば、1つひとつ答えます。お母さんが「いつもと違う」と思う直感を、小児科医は大切にします。

2. スマホの写真・動画を活用しよう

赤ちゃんのウンチの色や、子どもの動きで気になることは、スマホで撮影しておいて、健診・受診の時に見せてください。正確な診断の助けになります。

3. 気負わず受診しよう

子どもは体力がないので、容体が急変することも。「病院で別の病気をもらう」ことを警戒して受診を控えた結果、治療のタイミングを逃して重症化することが大きな社会問題になっています。今、受付後の待合から診察までを個室でできる小児科クリニックが全国的に少しずつ増えてきています。安心して早めの受診を心がけてください。

「思います。ご家族が楽しんで子育てができるような応援、サポートができるクリニックにしたいです。」

よかったですね。大変なことは何ですか？

「良いところは毎日子どもたちの診察をしながら、私自身が元気をもらえることです。忙しい診療の中で赤ちゃんや子どもたちと触れ合ったり笑顔を見ているととても癒されて、どんな疲れも吹き飛んで元気が出てきます。大変なところはたとえ自分の子どもが病気で、外来に来る病気の子どもたちのために仕事を休めないことです。私にも娘が二人いて、小さい頃はよく病気をして大変でしたが、今は大きくなったので安心して仕事ができます。」

どうすれば小児科の先生になれますか？

「私は小さい頃ぜんそくで身体が弱かったのですが、しんどいときに小児科の先生に触られると不思議と症状が治まっていました。そんな先生になりたいと子どもの頃から思っていて、今は夢を叶えることができてとても幸せだと思っています。小児科医になるために一番大切なことは、「病気の子どもたちを元気にしたい」という強い気持ちだと思います。私と同じようにたくさん子どもたちが小児科医を目指してくれたらとても嬉しいです。治療はチームで行うものです。子どもたちは、友達、仲間とよく話し合い、工夫して仲良くたくさん遊びましょう。その経験が、医療に携わる仕事全般に役立つはずです。」